

平成梅林実現に更に前進!

第二回植樹祭・橋命名式を挙行



第二回植樹祭・橋命名式開催

平成二十一年二月十五日午前一〇時から、好文橋北の苗畑で第二回植樹祭および橋の命名式が挙行されました。茨城県知事橋本昌、水戸市長加藤浩一、衆議院議員赤城徳彦、参議院議員岡田広、同藤田幸久の各氏はじめ来賓多数を迎えることができました。参加者は来賓・役員を含めて一八六名でした。

好天のもと、石森礼子理事の司会、梅大使のアシストも得て、式と植樹祭は滞りなく進められました。

小菅次男副会長の開会の言葉ののち、主催者として和田祐之介会長から「本日は記念すべき植樹祭となりました。今日植える一六七品種約五〇〇本の苗で、三七三品種となり、品種の数では日本一の梅園になりました。寄付に協力してくださった多くの方々、苗畑を造成していただいた茨城県の関係者に感謝します」との挨拶がありました。

次に宮嶋敬夫顧問が「近年の住宅事情の変化と嗜好の変化によって花梅の苗生産は危機に陥っている。この事業は今失われつつある梅の品種を保存し、後世に伝えるというのが理念であり、目的である。今回の苗は、旧東京都立農林高校が全国から収集された梅の見本園から、こ

好意で、偕楽園にない品種の穂を採取させていただき苗木に育てたものが主になっている。今後はこのような大口の梅の枝を一挙にそろえることが困難なので、全国の愛梅家に理念と目的を訴えて枝を採らせていただくかなければならない」と経過報告がされました。

橋本茨城県知事から「偕楽園には明治十八年の本で二百種類五千本の梅があるとされているが、もうそれを越えた。今後も尽力されて目標の五百品種が揃うことを期待したい。県も偕楽園公園の魅力向上懇談会を設けて、偕楽園の財産をどうすればみんなに楽しんでいただけるか、活用できるか考えております」との祝辞をいただきました。

加藤水戸市長からは「三七三品種になり名だたる名園になったことを感謝したい。偕楽園は斉昭公の時代に二張一弛、弘道館で学んで偕楽園で休息を取る階級制度が厳しい中で、民と偕に楽しむ公園として作られた。今もって料金を取らないで市民のための、県民のための公園として多くのお客を迎えている。多くの人に来てよかったなあと思ってもらえるような整備を行ってもらえるのはありがたい」との祝辞がありました。

来賓紹介、祝電披露の後、新たに整備された橋の命名式が行われました。和田会長が、会員から三一の提案があった中から、橋本知



事「梅林橋」と「小橋」をつないで「梅林小橋」と命名してくださったと、由来を披露。「会が平成梅林と呼んでいる梅林の真ん中、苗畑の中心に位置する橋として、観光客に回遊してほしい」と期待を述べました。

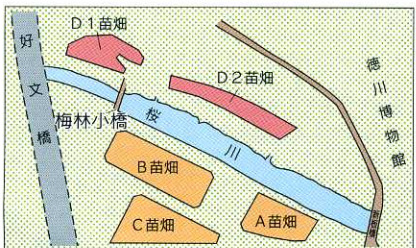
その後橋のテープカットと渡り初めを行い、参加者も橋を渡って新設の苗畑へ移動。

会長と来賓たちによる記念植樹の後、参加者はすでに定植されている梅の枝を支柱に固定する誘因作業に参加しました。川上清副会長から「後世に、二十一世紀の初めに五百品種の梅を楽しめるように努力した人がいると振り返ってもらえるようになる」との言葉で閉会しました。

平成梅林推進事業の重要性和会への期待の大きさと責任の重さを感じさせられた半日でした。

平成梅林の今後

上の記事にあるように、茨城県は今年度の植樹に向けて合わせて現苗畑の西側に新たな苗畑を整備していただきました。(図のD1・D2苗畑)



梅苗木は、現在約六〇種類を育成中で、これを来年の植樹祭で定植します。残る品種は希少品種でツギ穂の確保には多くの困難が予想されますが、再来年の第四回植樹祭までには五百品種の苗木を確保するよう努力します。

